

# 事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称	施策Ⅲ-2-1 生涯を通じた学習と社会貢献活動の推進
---------	----------------------------

## 1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	社会教育課長 荒木 正秀	電話番号	0852-22-5910
----------	--------------	------	--------------

事務事業の名称	少年自然の家事業		
目的	(1) 対象	県民（利用者）	
	(2) 意図	小学生を中心とした子どもたちに、江津市の浅利富士の林間の自然を活用した多面的な体験活動プログラムや交流の機会、宿泊研修等の場を提供することにより、心身の健全な育成を図る。	
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校の宿泊体験研修の立案支援を始め、各校の目標達成に向けた研修支援</li> <li>・家族を対象とした交流・体験活動等、主催事業の実施</li> <li>・多様な団体・個人による研修の支援</li> <li>・近隣施設と連携した研修の提供</li> </ul>		

## 2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	受け入れ研修事業利用者累計数、主催事業参加者累計数(人)	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			式・定義	年間25,000人の増加が見込まれる。	目標値		1,125,000	1,150,000	1,175,000
			実績値	1,100,032	1,128,038	1,154,034	1,181,373		
			達成率		100.30	100.50	100.60		%
成果参考指標	指標名		年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		0.00	0.00	0.00	0.00	
			実績値	0.00	0.00	0.00	0.00		
			達成率		0.00	0.00			%

## 3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	69,224	69,233
うち一般財源(千円)	63,941	64,836

## 4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

## 5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

- ・県内では県立青少年の家、国立三瓶青少年交流の家が類似の宿泊体験型の社会教育施設として設置されている。
- ・主な利用は小学校の宿泊体験研修である。（利用者の比率 小学生 42.4%、中学生 5.5%、高校生 12.4%）
- ・少子化、過疎化により児童生徒数が減少している。（学校基本調査による小中学校在学者数の計 H21年度 80,276名 ⇒ H26年度 74,228名）
- ・統廃合が進み、学校数が減少している。（学校基本調査による小中学校数の計 H21年度 410校 ⇒ H26年度 367校）
- ・サマーキャンプ等の主催事業については、募集を大幅に上回る応募がある。

## 6. 成果があったこと（改善されたこと）

- ・プログラムの工夫やPR活動により宿泊研修者が増加しており、県外からも研修利用の受入があった。

## 7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

### ①困っている「状況」

- ・閑散期(12月～2月)の利用者の落ち込み。

### ②困っている状況が発生している「原因」

- ・学校の研修が繁忙期に集中するほか、自然を活かした施設である特性上、閑散期は利用者が減少する。
- ・閑散期はインフルエンザ等の流行時期でもあり、キャンセルも発生しやすい。

### ③原因を解消するための「課題」

- ・閑散期の利用促進につながるプログラムを開発する必要がある。
- ・施設の暖房の見直し等、利用しやすい環境づくりを図る必要がある。

## 8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- ・長期滞在型のプログラムの充実やPR、利用時期の調整を行う。
- ・部活動や学習等の冬季合宿利用の促進や、学校の利用が少ない時期に実施可能な一般向けのプログラムの開発を行う。
- ・豊かな自然や充実したプログラムを活かし、近隣県からの利用者増を図る。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状」→「6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状」→「7. まだ残っている課題」→「8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

## 9. 追加評価（任意記載）